

ている小屋、これが現在残されている唯一の杉製粉の水車なんです。それを会員の方がスケッチしてくれたものを表紙に使いました。そんなわけで、この冊子はまちの中の見過ごされている宝物や何気なくずっと続いている人の暮らしを載せていこうということをテーマにして編集しています。次のページは二十三夜祭のお祭り、これにもぎやかなお祭りで、ばらまきやなんかがあるのですが、そのいわれなどは忘れてしまっている。そういうのを取り上げて調べてみるととても面白くて、地域の皆さんにもお知らせしたくなって始めてみました。

いま今市の課題は何かというと、中心市街地が寂れているんですね。それをどうにかできないかというので、愛の一言メッセージもやったわけなんです。では今市宿というのはどういう歴史があったのかと、勉強会を地元の郷土史家の方にさせていただきまして、それがここに掲載されています「風土が育てた今市のまちの性格」というタイトルの勉強会の内容です。

今市の特徴というのはやはり杉並木と日光の宿場町と報徳思想なんです。私たちは二宮金次郎は当然のことなんです。皆さんの町でもあったのでしょうか。戦前は小学校にありましたか。そうですか、全国的だったんですね。

今市は18年前にちょっと異常事態がおきまして、市長が贈収賄で2人続けて逮捕されたんです。ご記憶の方もいらっしゃるでしょうか。本当に連日連夜、新聞報道を賑わして、ちょっと市民も市役所の職員も自己喪失、自信喪失に陥って、暗い雰囲気だったんです。そのあと市長になった方もあまり市政運営に積極的ではなく、全て職員に任せるタイプの市長で、市民に夢のある政策を示せなかった。それではということで、いま県知事になっております当時は財政課長が劇的に市長になったんですね。そこで生活の指針として二宮尊徳翁の報徳思想を市民に広報することから始めて、私のように市外から転入してきた者はここで報徳思想と出会ったわけです。



簡単に資料を作ってきましたが、至誠、勤労、分度、推譲とか二宮尊徳の遺訓が弟子によっていろいろ伝えられていて、この遺訓を生業学習の基本理念としてことあるごとに市長がお話をしてくれました。「生まれて学ばざれば生まれざると同じ、学んで知るらざれば学ばざると同じ、知って行わざれば知らざると同じ」「道徳を忘れた経済は罪悪であり、経済を忘れた道徳は寝言である」など、私たちはさんざん聞かされて、そんなものかなと思ったんですけれども、最近はどうかなと思うようになりました。

この至誠、勤労、分度、推譲を今市だけに止めておかないで、いまは栃木県にしようと思えば知事選に立候補して頑張っているんですけれども、今度はどうなのでしょう、頑張してほしいと思っています。

そういうふうな生活の指針を作っていただいたことによって、今市市民がずいぶん自信をもって私たちもまちづくりに取り組めるようになった。一般の市民もまちづくりに参加できるような形ができていったことが一番いいまちづくりだったのではないかなと思っています。

まちづくりと行政の関係ですが、行政は私たちのような養成する機関にはお金を出して、養成したことや養成した団体ばかりに注目するのですが、私たち養成された側にすれば、そういう人たちが地域に戻って、既存の普段、普通の暮らしを支えている組織を活性化するためにちょっとしたお手伝いをする必要なのではないかなと思っています。たとえば自治会、育成会とか、地域の代表とか、そういったところに出て行って、少しずつ沈滞化した組織を活性化させ、地域を元気にすることや既存の組織との連携を持つことも行政との協働になるのではないかなと思っています。

ただ行政から使われるというのは抵抗があって、そのために時間が費やされるのは大変なこともあるのですが、それは私たちも行政と関わる事によって多くの経験や信用を得たり、参画

することができるのでお互い様かなという気がしております。

ちょっと時間がもうそろそろなので、そんなことで、私たち、主体的に楽しみながらまちづくりということでやっております。

成田 ありがとうございます。映像を使っただけでもわかりやすい活動の紹介ということで発表していただきましたが、さきほどもお話ししましたように後でまとめて質問等を受けたいと思いますので、引き続き、グラウンドワーク庄内さんの活動紹介をお願いしたいと思います。



阿部 鶴岡からまいりました、グラウンドワーク庄内の理事の阿部と申します。グラウンドワークという名前自体がまだまだ知られていなくて日本語で訳すとどういう言葉になるんですかと言われるのですが、日本語には直訳できないそうです。グラウンド＝地面を、ワーク＝働くこと。地面を働くとは一体何ですかということで。

実際にこのグラウンドワークという活動ですが、1980年代、イギリスのサッチャー政権の頃ですか、国の財政が破綻いたしまして、補助金とかそういうものを削除するという強硬な政策をとった時期がございました。そういう中で学校も自分たちで運営しなさい、市民で運営しなさい、病院も市民で運営しなさいという、とんでもないことをイギリスはやってつぶれた学校があるという。学校がつぶれるってどういうことと言うくらいに、大変な時期を迎えた時に市民が自ら動かなければいけないというシステムです。でグラウンドワークというのは手法ですね、これは。この手法を持ち寄って市民が自ら行政に参画したり、まちづくり活動に参画する手法を編み出したということでした。

グラウンドワーク活動とはどういう活動なのかといいますと。市民、企業、行政という3者が協働しまして、いろんな事業を始めるということになっております。イギリスではいろんな形でやられているのですが、日本では20年ほど前にグラウンドワーク協会ができて、一番最初にこの活動を始めたのが静岡県の三島市です。有名な源平川が枯渇して、ものすごい腐敗臭を出すような川になりました。昔はどうだったかという、すごいせせらぎでいい川だったらしいんです。もう地下水の汲み上げからいろんなことで、すごい全国でも汚い川ランキングに入るぐらいになっていたのを市民の手でよみがえらせたという事例が最初です。これがグラウンドワーク活動です。

そのグラウンド活動を庄内でもやりたいねというのが、3年ほど前に、いろんな環境保護運動をやっている中の中核の人たちが集まりました。今までは環境保護運動というのは、なにか行政と対立して反対運動、反対ばかり言っていれば何か環境保護活動をしているような気がしていたけれども、だんだんそういうことだけではだめだぞと感じてきた。実を言うと市民自らは一番環境を悪くしているのではないかという意識が出てきて、そういう中で市民自らが環境活動に目覚めなければならないということでグラウンドワーク庄内を立ち上げようじゃないかということで、環境保護関係者、環境関係の専門家の人たちに声をかけてNPO法人をつくろうということになりました。

当初の時点ではどうい事業活動をするのかはまだまだ見えていなくて、具体的な事例を見せられるようなことはなかったのですが、去年、一昨年と2年間活動しましてやっと事業が立ち上がって成果が見えるようになってきたということで、たぶん我々も呼ばれたのではないかと思います。

去年度の事業の成果ですが、1つが外堀堰という、このパンフレットですが、外堀堰再生保存の会をつくろうじゃないかと、これもグラウンドワー



ク庄内のメンバーが発起人となりまして、こういう会をつくろうとなりました。そして外堀堰の沿線地域の町内会長さんたちに声掛けをして、この沿線の堰をきれいにしていくように働き掛けたということで、いまではこの会の人たち105名の会員で、いろんな活動をしていますけれども、平均年齢が70歳くらいの方たちで、活動自体は大変なので、若い人たちを呼び掛けてやっております。1つはクリーン作戦。水質調査なんかは学校の関係者にやってもらったり、あとは歴史保存ということで、昔の思い出話とか、こういう冊子を作っている団体に、いまでは成長しました。

酒田の方では最上川クリーン作戦とか、このチラシの方を見ていただくとわかるように、飛島という酒田市の離島があるのですが、そこのゴミをなんとかしようじゃないかということで、飛島でゴミサミットなんかをしたりしています。こちらは酒田のチームがやっております。環境共生シンポジウムも去年、酒田市で行なわれたのですが、これもグラウンドワーク庄内が企画提案して、こういった行政サイド向けの環境まちづくりはどうあるべきか考える活動もしております。

それから公園づくりワークショップを民間主体でやったのははじめてじゃないかと思うのですが、こういうのを民間でグラウンドワークに委託して、みんなの町の公園づくりをどうやってつくったらいいかを、住民の人たちで考えるワークショップを企画提案とか、そういうのをやったりしています。いろいろ現場に行き行ってやっている写真もございますけれども、そういうこともやっております。

さて、今年の主要な事業ですが鶴岡市が産業経済構造特区という、バイオ特区申請を出したところ、申請が受理されたということで、その中に農業特区も入ってまして、市民が農業をしてもよいという特区申請が受かりまして、市民主体で農園を運営しようじゃないかということで、JA鶴岡と鶴岡市と、われわれNPOの3者が連携して、農園を運営しております。そのビデオがこれから観ていただきますけれども、NHKのニュースの特集ですが、ビデオが出なくてはいません。

この市民学習農園というのは、農協さんの関係者の所有地を低額、民間団体ですから最初の内、年間7万円ぐらいでお借りして、それを50区画、区割りしました。そこを畑に造成し直しまして、各個人でも団体でも申し込みで入ってもらうということで、50区画の内、いま27区画が埋まっています。そこのところを毎年自由に耕してもらう。そこまでは普通の市民農園と同じなんですけど、ここに学習農園という機能を付けたというのは、1つ農協の老人クラブ、OBの方たちですね、その方たちが常時、毎週土曜日日曜日の午前中だけなんですけど、指導にきてくれるということで、申し込みするとその方たちが来てくれて、どういうようにして農作業をすればいいとか、植えから収穫までどうすればいいかを指導してもらえるとということと、もう1つ、山形大学の農学部の研究所の先生から、少し農業のことに對して勉強しようじゃないかということで、毎月1回先生から来ていただきまして現状の農業の在り方とか、市民がなぜ農業をするとういことになるのかとか、もう1つ品種の具体的なお話とか、そういうのを毎回、変えていろいろやっております。

それからもう1つ市民学習農園で機能として違うところは、交流があるんです。市民農園だと、各個人とか団体の人たちが借りていて、隣の人は何する人ぞという感じですが、この学習農園に関しましては会員同士の交流を進めていくというのをやっております。いろんな会議もやりますけれども、出来上がった農産物を使って、みんなで収穫祭をやろうじゃないかとか、11月には新ソバが出たので蕎麦打ち体験もやってみようじゃないかとか。そんなことも企画の中に入れて、市民学習農園を運営しております。

そういう中でいままでもグラウンドワーク庄内が関わってきた環境保護団体の人たちと、いままですとやっていた方たちが新参の我々、2年前から活動を始めたグラウンドワーク庄内が

どうやって連携をとっていったらいいのかということで、我々は指導、アドバイザー制度を使いまして、環境保護団体の人たちへのアドバイス事業をしております。

それで1つ成果があがったのが、淡水魚の会という会があるのですが、その淡水魚の会の方たちが非常に困っていたことは、パソコンが使えないとか、パソコンを使ってデータを取り入れたりするのをどうしたらいいかということで、非常に困っていたのを、グラウンドワークの中にそういうのに強い人がいまして、そういうののアドバイスをしたりして、その団体の人たちがそのデータをもとに、国土交通省へ行って、国土交通省の方からその赤川に木工沈床という魚が棲めるような餌場と休み場所をつくるという事業まで発展したということも、成果として出てきました。



最後になりますが、このグラウンドワーク庄内が目指すところは、いままでは行政は行政で何か施策を考えて、それを実行に移す時にボランティアとか市民を使うという形をずっととってきたのに、逆に市民からの提案で行政が動きだし、それに基づいて業者の人たちもそれに協力する形で動き出すというような、そのスタイルがだんだん確立されつつあります。

その中の1つの事例として、外堀堰再生の会が立ち上がった後に、外堀堰沿線のところに病院が建ったのですが、そこに三角地の隙間空き地があいて、その300坪の隙間空き地をどうしようかということで、公園を実際に市民のみんなで作ろうということが実現しました。その時の仕掛けというのは、こういうやり方というのは全てワークショップ形式で、市民の人たちのアイデアを生かしながら、こういう公園にしたらいいよねということで、作ったのが外堀堰再生保存会の端っこにある石積みのところの写真なんですけど、これは去年出来上がった空き地を利用したちょっとした広場なんですけど、ちょうど外堀堰は通っていて、いま清掃活動をしていますけど、これも市民の有志の人たちが維持管理をやっていこうということになっております。

最後に行政との協働ということで、いままでそういった形のボランティア活動とかまちづくり活動ですが、やっぱり市民団体だけでやろうというのは、どうしても小さいものにならざるをえない。こういったハード整備も必ず付きまとう時は、どうしても行政の施策とかなんとかから市民がご意見頂戴で動いていたのですが、これからは造る前の段階から、ここの場所は地域の住んでる人たちが考えて、それを実現するために行政の人たちが応援するという形をできるだけ作っていきなというので、このグラウンドワーク活動は1つの運動体みたいなものになっているということが挙げられます。

それから最後にもう1つ、実際的にこの活動を、活動法人としてNPO法人格をもつと、やっぱり財政的な資金計画を経営感覚をもってやらなければならないということで、毎年事業計画を立てるのですが、こういったNPOとか、たぶんこのNPOもそうだと思うのですが、なかなか財政的な基盤が脆弱で弱いところが、どうしても否めないというところなんですけど、できるだけグラウンドワーク庄内は自主事業をやって、1/3は自主事業で、今日もってくるのを忘れたのですが、絵図というのを作っています。最上川流域散策絵図、鳥海自然ネットワークさんでもやっております鳥海山の絵図とか、ああいう自主事業を多くやるようにしていかなないと、補助金だけの委託だけでNPO法人を運営するというのはなかなか難しいという、これからますます難しくなってくると思いますので、それあたりのことを念頭に入れながら我々はやっていこうという話になっております。

成田 映像を観ることができなかったのは残念でしたが、阿部さんの方から活動内容を詳しく紹介していただきましたので、ご理解いただけただけではないかと思えます。実は私も私の集落